NEWSLETTER

NPO日本医療ネットワーク協会　発足記念会開催

80名参加　2005年9月16日　東京虎ノ門パストラル

NPO日本医療ネットワーク協会（2005年6月東京都認可）の発足を記念して、2005年9月16日に、虎ノ門パストラル（東京）で発足記念会が行われました（写真：講演会風景）。

本NPOは、日本レベルでの医療情報（カルテ）の統合、つまり、１患者１カルテを日本レベルで実現するための基盤を開発し、運営して行くことを目的としています（右囲み記事）。記念会では、NPO日本医療ネットワーク協会代表挨拶（吉原理事長、里村顧問代表、写真）、来賓挨拶（東京都医師会唐澤会長）、NPO趣旨説明（吉原理事長）のほか、記念講演として、「医療のIT化について」（厚生労働省医政局研究開発振興課医療機器・情報室　室長 千村 浩 氏）、「経済産業省における医療情報化施策の概要」（経済産業省商務情報政策局医療・福祉機器産業室　室長 堀口 光 氏）が行われました。その後の懇親会では、活発な意見交換が行われました。

NPO日本医療ネットワーク協会では、地域センターの上位サイトとして位置づけられる「スーパーディレクトリ」「最上位認証局」等を開発し、宮崎、京都と上位サイトを結び、２００５年度中の稼働（サービスイン）を目指します。

NPOの目的

90年代に始まった、診療情報のデジタル化と、異なるシステム同士の情報交換規約の整備の進展（MML, HL7, JMIX等）を受けて、地域を単位とした診療情報の共有プロジェクトが各地で始まりました。これは、患者さん、医療機関双方にとって大変意義のあるサービスで、カルテ開示の実現や、複数の医療機関の協調のもとに、医療の質向上が期待されます。

地域サービスが普及していくにつれて、地域をこえた患者移動の問題が生じ、地域間連携が必要となってきます。

本NPOは、この問題を解決すること、つまり、日本レベルでの診療情報の統合を実現することを最大の目的としています。具体的には、地域プロジェクトの上位に「スーパーディレクトリサービス」を立ち上げます。同一人物が複数の地域患者IDを持った場合、地域センターからの問い合わせに自動対応し地域患者IDの突合を行います。この情報を利用して、複数の地域センターに分散された医療情報を（見かけ上）統合します。

発足記念会配布資料を下記URLで公開しています。
http://lob.kuhp.kyoto-u.ac.jp/document/2005NPO_SDP/
スーパーディレクトリをはじめとするセンター機能の概説
http://lob.kuhp.kyoto-u.ac.jp/document/SDP/